

最新6タイプをチェック **SINGLE PLATE CLUTCH** 戦力分析!

<http://www.carboy.jp>

CARBOY

01 **JANUARY**
2007
[カーボーイ]

先取りマシンから読み取る攻略ポイント
2007 TUNE 指針!

古今東西有名人カミングアウト大会
趣味の達人!?

TUNING 大全

最新チューン
詳細ガイダンスPART2

ENGINE TUNE/SUSPENSION/BRAKE

2号連続
大特集!



ピ ストンや各種ギヤなど金属パーツの表面に粒子を高速で打ちつけて、表面を改良するWPC処理という技術はご存じだろうか？ WPCは約10年前に日本で開発されたのだが、当初は工具の耐久性を高めるための処理だった。それが自動車パーツの強化方法のひとつとして注目され始め、今ではメジャーなレースカーやチューニングカーの世界はもちろん、市販車のエンジンにも採用されるまでになっている。

そんな日本で生まれた素晴らしい技術を海外にも伝えたいと、アメリカに乗り込んでいった男が小川さんだ。東京に生まれ、その後名古屋や横浜で育ち、大学卒業後に就職したのは航空関連のシステム管理会社。そこで約7年コンピュータ関係の仕事をしたが、家業を手伝うために会社を辞めることになった。

WPCという技術を知ったのも、ちょうどそのころ。その技術を開発した不二WPCが神奈川県厚木に新しく工場を立ち上げるようになったのだが、興味を持った小川氏は家業の傍らWPC処理の営業も行うことになったのだ。

最初は知り合いの工場へ、工作機器の寿命を延ばす技術として営業をかけた。反応は悪くなかったが、どうしても売り上げのペースが遅いために認知度はなかなか上がらない。

そこで新たなWPCのフィールドとして目をつけたのが、モータースポーツの世界だ。以前にもル・マン用レースカーに採用されたことがあったので、GT選手権用マシンをはじめとするモータースポーツ関係やチューニングショップに営業をかけ

駆動系やエンジンパーツの強度を飛躍的に向上させる日本が生んだWPC処理を世界に広めるための宣教師!?

FILE ①

小川 泉

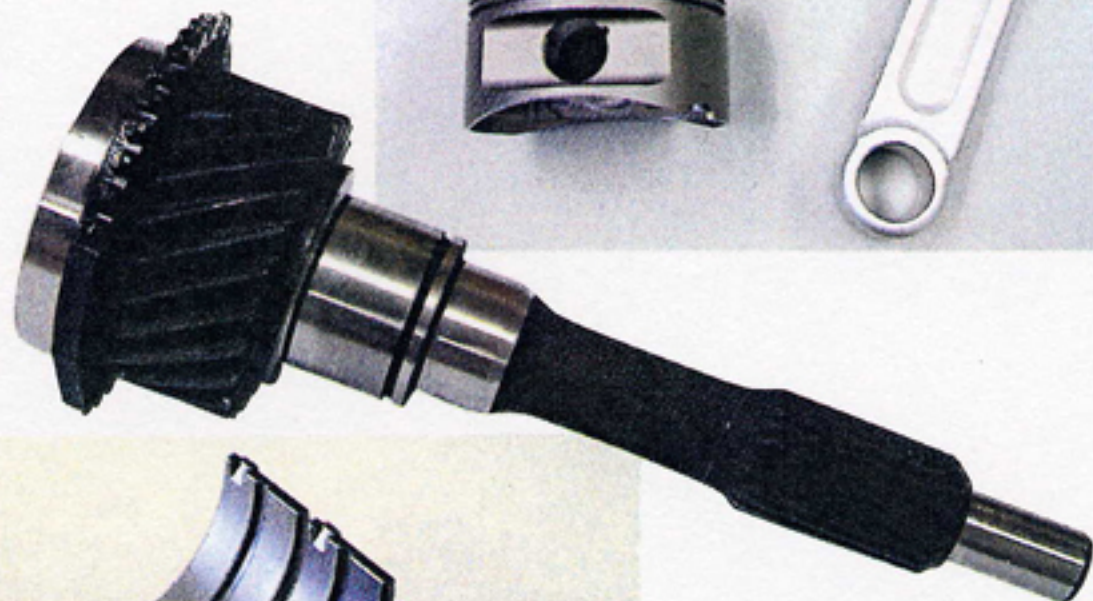
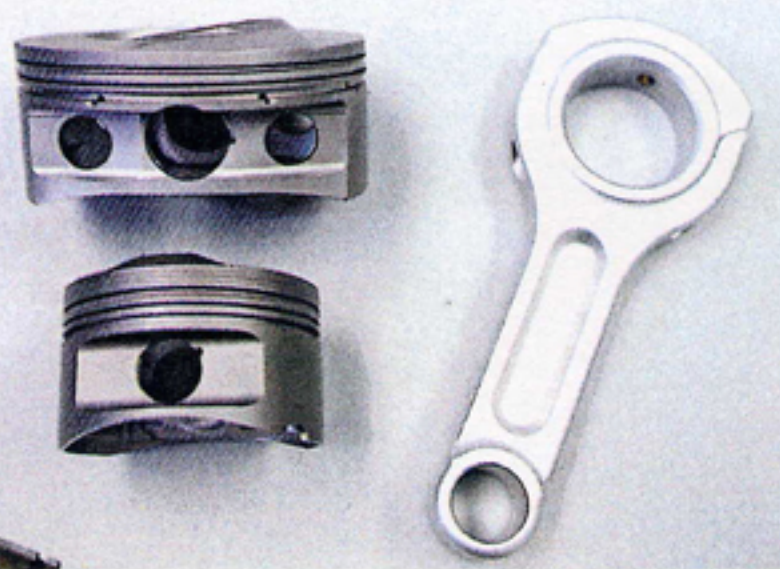
Izumi Ogawa

●WPC MICRO-RITE Performance



●左はモーターサイクル用のピストン、真ん中はフォーミュラ用のコンロッド。右は国産車用のピストン。すべてWPC加工済み。

●下の4G63用ピストンと比べると大きさの違いが一見してわかるピストンは、プロストックドラッグカーに使われているV8用。



●レーシングカー以外にも、国産車の純正部品で耐久性が要求されるものに採用されているWPC処理。写真はインプットシャフト。

●98年ごろのJTCC全日本ツーリングカー選手権のチェイサーに使用されたものと思われる、WPC処理されたベアリング。

男たちのメカニズム

The Mechanism of Japanese Tuners in USA

COATED WRIST PINS RAIL SIZE PIN BUTTONS



CERAMIC MICRO-DIMPLED PINS

●NHRやNASCARで有名なインメーカー「OJメカニクス」は、WPC加工されたメカニクス部品を販売している。

●これもJTCCチェイサーに使用されていた、トランスミッションギヤ。レーシングカーのあらゆるパーツにWPC処理がされている。



ることにした。

ところが、金属部品に非常に細かな金属などでできた玉を高速でぶつけることで表面を硬くし、パーツのひびや折れ、摩耗、かじりなどを防止するというWPCの効果を、初めはだれにも信じてもらえなかった。売れるようになるまでには、大変な苦勞があったようだ。

転機が訪れたのは、営業を始めて約1年半くらいから。ロコミで業界に広まり始め、夢のパーツ強化法として一気にメジャーになり、今ではFポンやGTはもちろん、F1マシンにまで採用されている。

ちなみにWPCとは「Wide Peening Cleaning」の略。同じものをトヨタでは「Wonder Process Craft」または「Wonder Peening Craft」、ホンダでは「Micro Dimpling (MD)」処理と呼んでいる。

さて、そんなWPCがアメリカでの営業を開始したのは、05年からである。キツカケは2000年ごろに社長が言った「アメリカに行こうか？」だった。最初は皆が冗談だと思っていたが次第に現実味を帯びた話になってきて、4年間の準備を経ていよいよ海外進出となった。

海外進出のためのスタッフの1人として選ばれたのが小川さん。準備期間中には英会話学校に通い、アメリカやヨーロッパなどへ視察へ出向しながら進出するまで最終的に決め手となったのは、「アメリカ人のほうがオープンで仕事をやりやすいのでは」という国民性だったという。

オフィスの候補地として挙がったのは、NASCARの本拠地ノース

カロライナ、インディアナポリス、ロサンゼルス、の3カ所。検討の結果、部品メーカーや日系企業も多いロスを拠点にすることとなり、05年8月から本格的に活動を開始した。

当時はアメリカでWPCがまだまだ知られておらず、さらに言葉の壁もあり営業は苦勞の連続だった。ある会社に飛び込み営業をかけたときには「出て行け!」とどなられたものの意味がわからず、そのまま説明をしようとする怒りで顔を真っ赤にしたオーナーから「お前らは宣教

師か? 宗教の勧誘か?」と言われてたこともあったという。

「今となつては笑い話ですが、日本の技術を伝えるという意味では宣教師かもしれないですね。『信じるものは救われる』。WPCを信じればパーツの耐久性が増すんです! (笑)」努力の甲斐あって、WPCはNASCARに徐々に採用されるようになったほか、ドラッグレースでも注目され始めた。今後は航空宇宙関係などにも普及させたいと、小川さんは考えている。

profile

大学卒業後、日本航空関連のシステム管理会社を経て、97年より家業の傍らモータースポーツ業界にWPCの営業を行う。05年から不二WPCの現地法人「WPCマイクロライトパフォーマンス」の社長として、アメリカのモータースポーツ界へWPCを浸透させる活動を展開中。

WPC MICRO-RITE Performance

2909 Oregon Court #C-2 Torrance CA 90503
www.wpctreatment.com



photo&report — YASU

